

2019年度「水俣・熊本みらい基金」助成事業報告書

企画テーマ	地方からあがる“祭り”ののろし
取り組み実施期間または日時	2019年9月6日(金) 18:00~21:00

【取り組み目的】

水俣病を生きてきた数多くの魂の軌跡には、学びが詰まっています。私たちは自身の肉体を通じた“生きた経験”として、この学びを未来世代（そして私たちの世代）につなげていきたい。経験していない過去と当事者として語ることはできず、それ以上に語り継ぐことの困難は常にあります。過去と共に在るということ、時間軸を超えた共生の感覚は共有するべきです。お陰様、という感覚が未来を語ることはできず、そこに謙虚な学びの姿勢を注ぎたいと思っております。今回、音楽(芸能)という楽しみをきっかけに、埋立地を媒介した魂の共存を訴えます。私たちがこの祭り(祭り)の模索、その形の形であり、日本の片隅からあがる

【取り組み内容と成果】 等身大の自治表明として、本企画を位置づけたいと思っております。

2019年9月6日、水俣湾埋立地(エコパーク水俣)のふるさと広場に特設ステージを設け、浅き知らず不ふたうによるライブパフォーマンスを開催しました。前座に茅花在住のミュージシャン天渡地動を迎え、また幕間には共同主催者である高倉鼓子、そして大津月雨氏による詩の朗読。舞台外側では水俣の暮らしを構える飲食店がその雰囲気と盛り上げてくれました。折に台風19号が近接し、直前に開催自体危ぶまれる局面もありましたが、幕が上がる心雨は止み、市内外・県内外から400名以上の人が埋立地へと足を運び、同じ空間を共有してくれました。時折吹まってくる強風に、職人が揺らめき、併せて私たちの魂も揺らめき、ふだん知覚していないものの存在を身近に感じることができた、稀有な時間だったことはあります。地域活性を伴ったような共有の在り方であるという一つの例証を、ここで示すことができたのではないかと考えています。向より、準備段階から後片づけに至るまでの長期間を共に駆け抜けてくれる仲間や存在は、大きな希望としてこの目に映りました。乗込みは、

【備考欄】 学ぶべきものは、私たち自身の手でつくり出すべきです。そしてそれは、一人だけでは決してできない。再現性で言えば低い今回の企画ではあります。形を壊してこころを芽生えさせたいと思っております。その土壌が、水俣にもあります。自己満足で終わらぬよう、私共も、その芽生えに対して向かい合うお手伝いをしていきたいと思います。